

月刊 みんなねっと

10
2020



ちょっとやんちゃな女の子 チアキ

特集 居場所としてのB型事業所



公益社団法人 全国精神保健福祉会



みんなの📖 — 読者のページ 2

特集「居場所としてのB型事業所」……6

- 「B型」サービスとは何か（野村忠良）……6
- 就労継続支援B型実態調査から見えてきたもの（近藤淳）……8
- 調査から見えてきた“利用者の想い”（北島沙希）……12
- 多様性の中で共に支え合い、地域で安心した生活を送る（猪鼻章人）……14

多事彩々 心の旅に誘われて（野村忠良）16

みんなねっと相談室から(第18回) **弟夫婦とその娘(姪)への心配** 18

子ども・きょうだい・配偶者 家族いろいろ(その6) 暗闇のトンネルから一筋の光が 20

リレー連載「リカバリーをめぐる、対話のように」①

一緒に訪問した経験をあらためて振り返る(前編) 岩谷潤(対話)川村全 22

《こうすれば働ける わが社のとくみ》(第6回) **有限会社 奥進システム** 26

カンタンてめき術(料理編) 調理が簡単! 我が家で作る手抜き料理 その1 30

知ることは生きること《連載58回》

「動物や家族を大事にしつつ、等身大で未来を描くイラストレーター」(前編)
《自らの人生の主人公としての家族の暮らし特集⑩》(青木聖久) 32

つたえる・つたわる・つながる《連載⑨》 主観的な話と客観的な話 (青木聖久) 35

ひびたんたん⑦ 神戸いつほ 36

お知らせします みんなねっとの活動 38

「B型」サービスとは何か

編集委員・みんなねっと前理事
野村 忠良

「B型」の制度上の正式名称は、「就労継続支援B型」といいます。2005年に成立した障害者自立支援法に基づく就労支援を行う事業所のサービスの一つで、就労が難しい方が通い、単純作業をして全国平均で月1万円程度の工賃を稼いでいます。

A型と就労移行支援

この法律により、それまで「共同作業所」という名前で呼ばれ、

障害がある方が通っていた事業所は、B型のほかに、「就労継続支援A型」や「就労移行支援」というサービスを行うようになりました。

A型は、事業所と利用者が雇用契約を結び、一般と同じ最低賃金（時給）を保障されて働きます。

就労移行支援は、地域の一般の会社などに就職するために、まず、事業所に通います。

共同作業所の誕生

共同作業所が初めてできたのは1970年頃からで、知的障害のある方の親たちによって開設されました。一方で、精神病院に通い就労ができないという患者さんたちは、その頃はまだ「障害者」とみなされておらず、通うところがなく、本人も家族も困っていました。

そんな時に、各地の精神障害者の家族会などが共同作業所を開くようになり、その活動が全国に広がってゆきました。

はじめは本人や家族がそこに集まって、お茶を飲みながら談笑し、お互いに支えあつて、孤立した生活の苦しみを和らげていました。

そのうちに、内職や手芸なども行うようになり、手芸作品を売ってわずかなお小遣い稼ぎをするようにもなりました。さらに発展して、弁当の仕出し店や喫茶店の経営などをするところも現れました。

B型になる前の作業所では

自立支援法ができる前の作業所では、就労や単純作業でお金を稼ぐことのほかに、仲間との交流のための行事や作業所の運営を話し合うミーティング、絵画教室・書道教室や楽器演奏、陶芸などの趣味の活動、職員が利用者の自宅まで出かけて家具・電気製品の修理やゴミ出しなどを行う生活支援も活発に行

われ、仲間意識がとても高く生き生きとしたお互いのつながりがありました。

利用者一人ひとりの役割が話し合いで決められ、それぞれが作業所にとってなくてはならない存在となり、力の出せない利用者は皆が支えて人間としての成長と充実感もありました。

B型の利用者に必要なこととは

厚生労働省により、B型サービスでは工賃の高い事業所ほど報酬が多くもらえるあり方に最近変えられ、利用者も職員も、わずかでも工賃を上げることが至上目的になりました。

そもそも、就労が難しい方々への支援では、まず皆がご本人

の話をよく傾聴して、病を抱えながらも人間として自信が持てるようになり、人との関係も安心して築け、日々を安心感と幸福感をもって過ごせるようになることが必要とされています。こうした支援における高い効果と職員待遇の向上が大切です。

実態調査で明らかになったこと

こうしたことを明らかにするために、B型事業所やグループホームでつくるNPO法人全国精神障害者地域生活支援協議会（あみ）がB型事業所と利用者の全国調査を行いました。

今回の特集では、利用者がB型事業所に求めている役割について取り上げてみました。

就労継続支援B型実態 調査で見えてきたこと

特定非営利活動法人
全国精神障害者地域生活
支援協議会(あみ)事務局長

近藤 淳



はじめに

平成30年4月、厚生労働省は障害福祉サービスの報酬改定で、就労継続支援B型(以下、B型)事業所に給付される基本の報酬単価を、利用者さんに支払う平均工賃額のみによって段階的に区分けすることとしました。高い工賃を支払っている事業所ほど報酬単価を高くする(運営費が多く入る)仕組みに

変え、工賃額の高低のみでB型事業所の評価を行う方向性に舵を切りました。

もちろん利用者さんに高い工賃を支払うことを評価するのは理解できません。しかしながらその一方で、「利用者ニーズは所得(工賃)だけなのか?」、「利用者さんの中には他のニーズを求めている方もいるのでは?」、「工賃への支援ばかりではなく、

日々の生活支援も重要ではないか?」等々。国との話し合いでは、生活支援の重要性についてもお伝えしましたが、当時の担当者の方は「生活支援に対するデータを持っていないので、生活支援の必要性を訴えられても:」と工賃以外での評価について検討するデータ(数字)がないことには、同じテーブルで議論ができない、との話がありました。

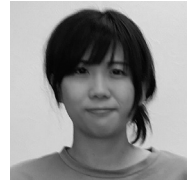
そんな中、「本当に工賃額のみで事業評価を行う仕組みで良いのか?」という支援者の「憶測」を「確信」に変えるため調査研究は始まりました。

また、「平均工賃額」のため、長時間安定して作業参加できる

調査から見えてきた “利用者の想い”

特定非営利活動法人
あおば福祉会（東京）

北島沙希



今回の調査でアンケートの軸となったのは『利用者の声（満足度）』でした。そのため、調査結果からは利用者はどのようなことに満足を感じているのか、なにを必要としてB型事業所に通っているのかということが見えてきました。

仲間、そして回復（リカバリ）への支援を必要としている

結果として、今回の調査では利用者の満足度と平均工賃額には関連がないことがわかりました。それよりも満足度につながっているのは「悩みや課題を共有し、共に悩み、サポートしてくれるスタッフや仲間がいる」「事業所は体調の良し悪しに関係なく利用できて、居場所となっている」「スタッフや仲間が自分のことを認めて、信頼

してくれていると感じる」といったことでした。

スタッフや仲間が自分の回復（リカバリ）にむけて応援してくれていると感じられること、そしてその結果として自分が回復していると感じる、特に「仲間がいる」「居場所がある」「認められている」という感覚が大切だったのです。

生産支援と生活支援の「両輪」が大切

支援時間との関連をみてみると、B型事業所では、生産支援（作業への支援）と生活支援には同じくらいの時間が費やされていることがわかりました。そのうえで、生産活動でスタッフ

多様性の中で共に支え合い、 地域で安心した生活を送る

社会福祉法人はらからの家福祉
会 さつき共同作業所（東京） 猪鼻章人



私たちの作業所の日常

さつき共同作業所では、個々それぞれのように生活を送りたいか等の目標を立てて通所されている方が多くいらっしゃいます。就職をめざす方や作業を通して生活リズムを整える方等、利用の目的・方法は多種多様で、一人ひとりに合った支援を行っています。

日々作業を実施しています

が、室内作業では主に、陶芸・革細工・封入・切手の仕分・その他委託作業を、外作業では自転車撤去・清掃（公園・神社）・出向販売等を行っています。どの作業をどの程度の時間行うかは、その日の体調や目標をもとに、個々決めて取り組んでいただいています。また、体調が芳しくないこともあると思います。そのような時には「憩」という、

読書や新聞を読んだり、来ている人と話をしたり自由に過ごせる形を設け、皆さん無理することなく過ごされています。

作業所に行けば「誰か仲間やスタッフがいる」

室内外の作業を毎日実施してはいますが、それは目標達成に向けて取り組んでいくための一つのツールであり、作業所のすべてではありません。目標に向けて日々通所する中では、さまざまなことが起こり得ます。日ごとに変化し得る体調の中で、ふと立ち止まってしまったり、何か疑問に思ったり悩んだり、とまどってしまうこともあります。そのような時、「作業所に行

《第18回》
弟夫婦とその娘(姪)
への心配

みんなねっと
相談室から



◆相談内容

実家を継いでいる弟の娘(姪)が、高校在学中に統合失調症を発症したが、卒業して、かねてから交際していた方と結婚をし、赤ちゃんにも恵まれた。しかし、出産後のストレスからか再発した。弟夫婦は一生懸命に我が娘と孫のために世話をした。やがて幻聴や妄想がひどくなり、夫の両親が孫の世話をすることになり、離婚に至ってしまった。

実家に帰されてから症状はさらに悪化し暴言や暴力がひどく、母親がうつ状態になった。

真夜中でも家を出て、コンビニやかなり遠方の交番から連絡が入るようになり、弟と一緒に警察に行ったりした。姪を注意したり諭したりしてきた。最近に弟に重い病気が見つかり将来

が心配になってきている。弟家族を支援している70歳代の女性からの相談です。

◆相談員の対応

姪の両親に代わって大変な苦勞をしながらお世話をしていることをねぎらいました。

深夜に姪から電話がかかり、車で探して家まで送り届ける途中の車内では「両親を心配させないようにする」と約束をしてくれるが、「私なんてどうでもいい」と思っているのでしょうか」と凄まじると、二人だけの車内で暴力を受けけるのではないかと身の危険を感じるときもありました。

弟が病気になったことも長年の苦勞のせいだと思おうと姪に対する愛情も変わってきたということでした。

弟夫婦に代わって愛情を注いできたがなかなか良くならず、姪に対する嫌悪を感じるようになったというお気持ちをそのままねぎらいました。そして、こうして電話をかけていただいたことが何より良かったこととお伝えしました。

身内だけで当事者の世話をすることが当然だと考えていて、誰かに助けを求めることは思ってもいなかったそうです。本人のためを思う気持ちが本人に通じないことへの焦りと愛情の変化に気づかれたことはとても大事なことです。もしこのまま無理を続けたら大変なことになっていたかも知れません。他の方たちはどうしているのかと疑問を持ち、相談をされたのはむしろ遅すぎたくらいです。

本人の将来のことは、保健所や福祉課などに相談をしていただきたいとお伝えし、家族には家族会があることを紹介しました。対応の仕方や社会資源や福祉サービスなどの利用の仕方、家族会の方から教えてもらうことをお勧めしました。

◆感想

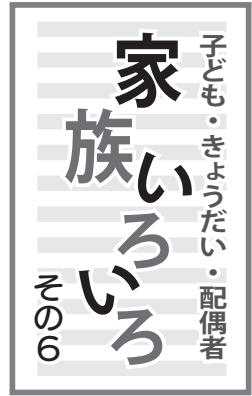
一人ひとりの障害の違いはその家族の持っている文化や歴史からくることも多く、まわりからのアドバイスがあっても簡単に解決できるものではないと痛感します。

完全に回復することを期待する気持ちは家族として当然ですが、障害として残っている慢性の部分との付き合い方を見出して、病気があってもその人らしい人

生を送れるようになってくる当事者さんは、人生の先輩のようにまぶしい存在になっていきます。

私の教科書は、家族会での会話の中にあります。接し方だけではなく、薬などの医療や社会資源を選ぶ時にも、家族会の方たちの経験の中にたくさんヒントがあります。何気なく話す会話の中にもどんだ底をくぐってきた人の話には、実際に経験をした力強さがあり励まされます。

私達は愚痴を言い合って、弱さをむき出しにしているように見えますが、それでもちゃんと生きていて、柳の枝のような強さを持つているんだなあ、と感じます。相談者の方にも家族会にきて、今までの苦勞を残らず話していただき、肩の荷を下ろしてほしいと思いました。(岸澤マサ子)



暗闇のトンネルから 一筋の光が

(LINE家族会Pure Light)

K・S

娘が高校三年生の八月に授業中に独り言が止まらなくなり、学校から連絡が入り迎えに行きました。高校を休学し診断書を提出しました。

そこには《統合失調症》と記載がありました。耳にしたこと

はある言葉でしたが、実際にとのような病気なのか想像がつきませんでした。

インターネット、本で調べれば調べるほど悲観的な情報ばかりで絶望的になりました。

*

病院で処方された薬を飲んで、支離滅裂な言葉を延々と話して、家じゅうを歩き回り、外に飛び出して家族で探し回る毎日。娘の終わりのない話を傾け、歩き回る娘の後を追いかける。

私は暗闇のトンネルの中をただひたすら歩いていようかどうか、うすれば良くなるのか…。

*

毎日悶々と過ごしている中、

「そうだ、統合失調症を発症し回復した情報を探そう」と思い立ったのです。そこに娘を回復させるヒントがあるのでないかと思っただけです。そして見つけたのが、僧侶である法秀さんのブログでした。

そこには、今まで飲んだことのある薬の感想、回復過程など、当事者でしかわかり得ない内容が書かれていました。そして、ブログにはLINEグループのQRコードの記載もあり、私は勇気を出して加入することになりました。

*

驚くことにそこには、同じ統合失調症の家族を持つ人、当事者がたくさんいたのです。日本

全国、海外の人も。暗闇のトンネルから一筋の光が見えたようでした。今まで家族以外相談できる場所がなかった中、娘のことを話せる場所を見つけたので



す。LINEでのやり取りです。顔は見えませんが、多くの仲間が悩みを共有し、時にはともに泣き、喜び、アドバイスをもらえる。そして、そこから《統合失調症》がどういふモノなのか多くを学びました。

主治医から変薬提案があり躊躇していた私がLINE家族会に相談して、「鎮静していないのであれば変薬を考えてみるのもいいかも」と意見をもらい変薬できたのは仲間のおかげです。その薬が今、娘の主の薬となっています。

*

娘の高校から連絡があつてから、この8月で3年になります。大阪精神医療センターに転

院し、そのデイケアへ通い毎日「学校に行つてきます」と出かけています。高校を途中行けなくなり卒業したものの、大学進学も断念した娘なりの自分の居場所としての『学校』なのかなと思つています。

*

そして、デイケアを卒業し次の目標である就労に向けて就労移行支援施設へ通うことになりました。通所するのに電車で片道一時間、朝自分で起き、今度「仕事に行つてきます」と出ていきます。

まだまだ、就労に向けての道のりは長いですが、家族でゆくりと娘の成長を見守つていきたいと思ひます。

「一緒に訪問した経験を あらためて振り返る(前編)」

岩谷 潤 (対話) 川村 全

《対話者のプロフィール》

岩谷 潤…精神科医・和歌山大学保健センター。ぜんかれん等でアルバイトをし、30代で医学部を卒業。精神科救急に従事した後に、訪問診療に携わるようになった。

川村 全…ピアスタッフ・メンタルヘルス診療所しつぽふあーれ。20代でひきこもり、30代でアルコール依存症で入院。福祉施設でピアサポートを知り、A C Tや訪問型の診療所で個人宅を訪問している。

ふたりは、2015年から3年間と少し、協働して仕事をしていました。これは、2020年夏にオンラインで行なった会話の記録を編集したものです。

一緒に訪問していた、 彼のこと

岩谷 訪問看護ステーション
A C T・Jから今の職場に移っ
て、どう？

川村 あんま変わらないね。訪
問だね。変わったのは、アルコー
ルの人のところに行ってること
かな。二人ぐらい。

岩谷 川村さんにとって、アル
コール依存を持つ人のところ
と、そうじゃない人のところに
行くのって、違うの？

川村 違うかなあ。アルコール
じゃない人って、想像しかでき
ない。岩谷さんと一緒に訪問し
ていたあの人は、ひきこもって
自分の世界に入ってるという、

こうすれば働ける



わが社のとりのくみ

第6回

有限会社 奥進システム(大阪市)

代表取締役

奥脇 学さん

(仮名)

東上 洋さん

浦田梨佐さん

奥進システムは、大阪市でウェブアプリケーションの開発を行っている会社で、精神障害のある方の就労定着支援システム「SPIS^{エスビ}S」<https://www.spis.jp/>の開発元でもありません。

チャンス広がるインターネット
奥脇 もともと、企業のエンジニア

ニアで「インターネット技術を活用して社会に貢献できる企業をめざそう」と2002年に会社を立ち上げました。インターネットの遠隔システムでは、時間や場所に縛られない柔軟な働き方(テレワーク)が可能になるので、小さなオフィスや自宅を仕事場とする人だけでなく、これまで働きたくても外に

出て働けなかった子育てや介護中の人、障害のある人にも仕事のチャンスが作れると思っていました。私自身は単身赴任が長かったので、テレワークができれば家族とずっと一緒に暮らせるといふ思いもありました。

障害のある人の採用を開始

奥脇 障害者雇用は、2006年に重度身体障害の方を採用したことがきっかけで、精神障害のある人の受け入れは2010年から行っています。現在、従業員は障害のある7名(身体障害2名、精神障害2名、発達障害3名で5名が手帳を取得)とシングルマザーの合計8名で、全員が正社員です。障害のある

実習生も積極的に受け入れていて、実習を経て入社した人がほとんどです。採用条件は、社員全員がその人と一緒に働けると思えるかなんです。

精神障害のある人への配慮

奥脇 身体障害の方には、インターネット環境や段差やトイレなどのハード面を整えました。が、精神障害のある人の受け入れにあたっては、まず、就業規則の整理をして変形労働時間制*を採用しました。これは、毎日8時間働くというのではなく、

*労働時間を月単位・年単位で調整することで、繁忙期等により勤務時間が増加しても時間外労働としての取扱いを不要とする労働時間制度。

事前に申告すればその日の勤務時間の短縮や延長が可能で、1か月でみて1日8時間×日数分の仕事をしていけばよいというものです。病院に行ったりするときは時間単位で有休が使えます。また、出社がしんどい人は在宅勤務にしています。

東上 私は朝1時間早く仕事を始めて、勤務時間を積み立てて3週間に1回くらいの割合で休みをとっています。

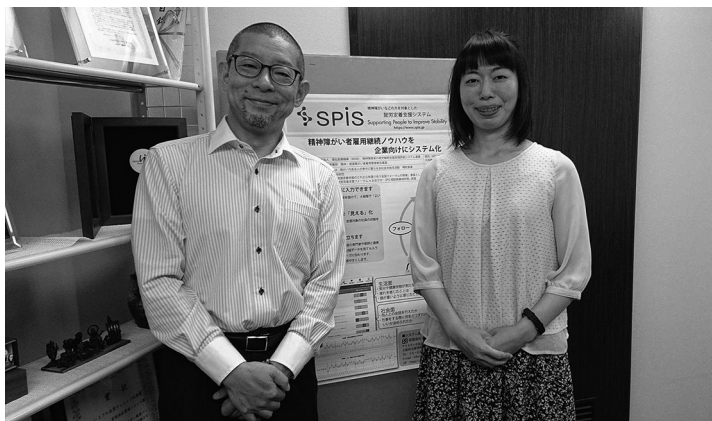
奥脇 現在は新型コロナウイルスの影響もあり、金曜日を除き全員が在宅勤務をしています。もともと在宅の社員もいますし、パソコンとインターネットの環境があれば支障は全くありません。やってみたら、浦田さんはか

えって自宅の方が落ち着いて良いみたいです。

東上 あとは30分ルールがあります。これは、何かにつまずいても自分一人で考えるのは30分まで、30分経ったら他の人に聞くというルールです。

日報でしんどさを把握

奥脇 もともとSkype^{スカイプ}のビデオ通話を使った毎日の朝礼で昨日の報告や今日の予定について確認し、日報にその日の業務時間や感想を書いてもらっていました。ある支援員さんから、精神障害のある方は「今の調子は何パーセント？」を聞くと良いといわれたので、日報にしんどさを4段階で評価する項目を



奥脇さん(左)と浦田さん

追加しました。この日報が後のSPiS開発につながりました。

東上 朝礼に参加していましたが、しばらくは調子が悪くても何も言えないまま自滅していました。自分からしんどいと言えるようになったのは入社して5年くらい経ってからです。皆が自分の調子をわかってくれているので、助かっています。

社内でのSPiSの活用

東上 SPiSに今日できたこと、しんどかったことを書いて1日が終わります。1日の振り返りができて、仕事の区切りになります。調子が悪い時は、さらに悪くならないように気を付

けています。

浦田 1日の振り返りの機会になっっています。私は緊張やしんどさなど4項目を設定しています。また、後で見返したときのために、その日のうれしかったことも書くようにしています。SPiSを始めて5年になりましたが、自分の体調がわかるようになったのは4年くらい経ってからです。

奥脇 私が全員にコメントを返しています。一人ひとり、つ方に個性がありますね。何年も続けていくとデータが貯まって、その人がしんどいポイントがわかってきて、危ない時期が予測できて、突然で驚くことがなくなります。

仕事をして充実した毎日

東上 もともとプログラム開発の仕事をしていたのですが、月150時間の残業が6か月も続くような生活で体調を崩し「うつ病」で入院、退職しました。元の業務には戻れないと思っていましたが、ここに実習に入ってから、週3日、1日3時間から始めて、実習が終わる頃にはフルタイムで仕事ができるようになっていました。入社して同じプログラム開発の仕事でも残業はゼロです。

以前は仕事の中にムダな時間もありましたが、今は時間内に仕事を終わらせるというプレッシャーもあつて効率的に作業をするので、終わると1日やり

切った充実感があります。

浦田 私はこの会社が初めての正社員です。初めは実習生で、週30時間、午後だけから始めました。WEBやシステムの知識はほとんどない状態でしたが、教えてもらいながら入社して6か月でホームページを完成させるまでになりました。それ以外にも、お客さんとの打ち合わせに同行したり、実習生の指導をしたり、自分の経験についての講演をするなど、いろいろな新しい経験をさせてもらっています。

この会社はいい人が多く、しんどいことが言えて相談できる人がいるので、私にとつて安心できる場所です。

もっといろいろな人が働ける会社

奥脇 障害のある人は困難を抱えているけれど、自分と向き合っていて、きちんと働こうとする意欲があつて、人間的に尊敬しています。また、そういう人たちと一緒に働ける喜びがあります。社員には、仕事もプライベートもどちらも充実させながら、細く長く働き続けてほしいと思っています。

将来は、ひきこもりや人と会うのが嫌いな人など、もっといろいろな人を受け入れられるように、より柔軟な会社にしていきたいですね。

(取材・編集委員 菅原かほる)



私たちは他者に、主観的な話をする
ことがあります。その際私は、次の4点が大
切だと思っっているのです。それは、**①**気持ち
が溢れ出るような表情で、**②**回想するとき
は淡々と、**③**話の切り替え場面では力強く、
そして、**④**主観的な想いを伝える時は優し
く語りかけるように話す、ということ。こ
のことについて、母親が子どもへ伝える場
面を例示すれば、以下ようになります。
①（とっておきの表情で）「**②**あなたの
ことは、よく叱ってきた。だから、お母ちゃ
んに対して腹が立つこともあったと思う。
③でも、一つだけ知っておいてほしい。**④**
それは、あんたが笑った顔を見たら、それ
だけでお母ちゃんは天に昇るほど幸せ……」。

かたや、客観的な話をする場合は、根拠
や情報源があることよって、相手に伝わ
りやすくなります。例えば、障害年金のこ
とを聞かれれば、「日本年金機構のホーム
ページでは」というように、根拠を。また、
精神障がいがある人の家族が家族会につな
がる意義を聞かれれば、「○○家族会の会
長さんの話によると」とのように、情報源を。
このように根拠や情報源を伝えた方が、客
観的な話では、より説得力を増すことにな
るでしょう。

反面、聞く側からすれば、これらの主観的
な話・客観的な話をされる時、受けとめる
場所が異なるように思います。それは、主観
的な話は心で受けとめる、ということ。一
方、客観的な話は頭で受けとめる、というこ
と。このようなことから、気持ちを含めた
主観的な話をする場合は、理屈や、他者の言
葉の引用はかえって、伝わる力を半減させ
るとも言えるでしょう。大切なことは、私
のありつたけの想いを、私の独自の言葉で、
いま・ここで、あなたに伝える。

ひびたんたん⑦

こうど
神戸いつほ



病気を患ってから
人と接する際に

.....

幻聴に対してブツブツ
言っている私に対して
友人が――

こっそり薬を服用し
ようとした私に――

この病気のこと、私自身に
関すること等をごまかす
ことが増えた気がします

私の近況が気にな
るようで――

今、何か
言った？

いや
別に

それ、
何の
薬？

サ...
サプリ
だよ

ギョッ

今って
何の
仕事
してるの？

ご想像に
任せ
します

しゅん

お知らせします みんなねつとの活動

■日弁連 民事裁判手続等のIT化に関するアンケート調査

8月18日、日本弁護士連合会人権擁護委員会の実施する「民事裁判手続等のIT化に関するアンケート調査」にみんなねつととして協力することとなり、代表理事と事務局長が事前説明を受けました。

「現在、政府及び司法府において民事裁判手続等のIT化が検討されています。同委員会では、これに伴い、民事裁判手続がIT化された場合でも、障がい者の司法アクセスが後退することのないようにするにはどのような手続上の配慮及び環境整備が必要なのか、検討をしています」とのことでした。

アンケート内容は、個人間のお金の貸し借りの事例をもとに、返済の約束が守られない状況で、お金を貸した側と、お金を借りた側の双方の立場になって、障害特性に配慮することなどを答えていくものとなりました。

今後政府の法制審議会において民事訴訟法の改正を含めた議論となっていくとのことでした。

今回の日弁連さんを通じての回答のみでなく、障害者団体としても、注視していくことが大切です。

■みんなねつとサロンオープン

インターネット上での新しい家族のピアサポートシステムとして「みんなねつとサロン」を9月にオープンしました。スマホやPCから無料で登録ができ、サロン内ではニックネーム

でも利用することができます。

「みんなねつとサロン」で経験や気持ちを共有することで、「自分は一人じゃない」ということを実感し、ご家族自身の気持ちを大切にしていたりするための場です。精神疾患・障がいのある方と過ごすご家族が、直面している出来事や抱える気持ちなどを匿名で相談し合う場としてご利用ください。

精神障害は、10代後半から20代前半に発病することが多いにもかかわらず支援体制が制度化されていません。そのため、当事者・家族共々孤立を余儀なくされ、精神的にも疲弊し荒廃してしまうような状況に置かれがちです。若年層の家族は仕事に従事しており、講演会や研修会に参加することが難しいこと、既存の家族会では世代間のギャップがあり興味・関心や二

ご利用の流れ

3ステップの登録で、すぐに無料でご利用いただけます
かんたん3ステップ!



<https://minnanet-salon.net/service>

ニーズが違っているともいわれています。こうしたことから精神保健福祉サービスに関するニーズが最も高い若年層の家族に対する情報提供や支援がほとんど行き届いていないのが現状です。

みんなねっと事務局の活動

8月3日(月)	JDF 代表者会議
	コミュニティサイト構築打ち合わせ
8月5日(水)	代表理事会
8月6日(木)	近畿ブロック会長会議・交通運賃PJ (WEB)
8月11日(火)	JDF パラレポ特別委員会
8月18日(火)	日弁連 民事裁判手続等のIT化に関するアンケート調査事前説明
8月19日(水)	日本ケアフィット共育機構意見交換
8月20日(木)	案内用図記号ガイドライン改訂版見直しに関する委員会
	障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究委員会
8月21日(金)	障害者雇用分科会
	オフラインミーティング準備打合せ
8月22日(土)	医療費助成実現学習会 WEB 開催
8月25日(火)	オフラインミーティング準備打合せ
	We Work zoom 打合せ
	編集委員会
8月27日(木)	知的・発達障害者等に対する公共交通機関の利用支援に関するアンケートヒヤリング
8月28日(金)	障害者政策委員会 (第100回)

多くの方に参加していただくことで、より信頼性と効果の高

いサイトになり活動も活発になります。ぜひご登録ください。

精神疾患がある方の
家族向けコミュニティサイト
みんなねっとサロン
オフラインミーティング

リアルに集まって、みんなで語り合しましょう!!

みんなねっとでは、SNSを活用することで、家族同士が安心して気軽に繋がり相談や情報交換ができるように、新しく家族のためのコミュニティサイト「みんなねっとサロン」を開設しました。また、オンラインにとどまらず、リアルに集まるオフラインでのミーティングを実施します。

孤立から安心へ～当事者の人生と家族の人生、家族自身のリカバリー～をテーマに、グループにわかれて、語り合います。

- ◆ 家族の困りごと・悩み
- ◆ 接し方の工夫
- ◆ セルフケア(家族が元気であるために)

時間 14:00～16:00 (各会場共通・参加費500円)

東京 11月14日(土) 先着40名 としま区民センター
豊島区東池袋1丁目20-10

愛知 12月5日(土) 先着20名 ウィンクあいち
名古屋市中村区名駅4丁目4-38

応募方法

精神障害をもつ方の家族のみ参加できます。各会場とも下記サイトからお申し込みください。定員になり次第締め切ります

<https://tinyurl.com/yydgqyl2>

※参加費は、会場にてお支払いください



お申込みお問合わせ

みんなねっと

(公益社団法人全国精神保健福祉会)

TEL▶ 03-6907-9211 URL▶ <https://seishinhoken.jp/>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-46-13 ホリグチビル602